

知財・情報フェア & コンファレンスにおける 「生成 AI を活用したアイデア発想／創造」の展示・発表 — 2026 年（第 35 回）と 2025 年（第 34 回）の比較と変化の考察 —

2026 年 9 月 21 日（調査基準日：2026 年 9 月 21 日）

Claude Fable 5.1

要旨

1. **生成 AI は 2025 年に「主役」となり、2026 年に「前提」となった。** 2026 年（第 35 回）は 2026 年 9 月 16～18 日に東京ビッグサイト東 3 ホールで開催され、出展は 171 社・団体・367 小間^[1]、登録来場者は 3 日間累計 15,502 名であった^[2]。2025 年（第 34 回、9 月 10～12 日、西 3・4 ホール）は 158 社・団体・328 小間、15,207 名である^[3]。2026 年は重心が「調査・明細書作成の効率化」から、「発明創出（アイデア発想）」と「AI エージェント／MCP による一気通貫化」へ前進した（事実に基づく分析。該当件数の悉皆確認は未了。第 8 章）。
2. **代表例の交代。** 2025 年は、特許文献を学習して 0→1 のアイデアを生成し、請求項自動生成・ニーズ予測・事業化ストーリーまで拡張する Axelidea「AXELIDEA Patent／Patent Flow」が象徴的であった^[4]。2026 年は、AI Samurai の新機能「発明御三家」（GPT・Claude・Gemini の 3LLM 合議による発明創出）と「発明ホコタテ」（1 件の基本特許から周辺特許群 5～6 件の案を約 5 分で自動生成）^[5]、aiip（マインドマップによる発明発掘から権利化・他社牽制まで）^[6]、東芝デジタルソリューションズ（IPeakMS＋生成 AI で発明創出から知財活用まで）^[7]などが目立つ。
3. **変化の本質は 4 点。** ①単発チャット型の「壁打ち」からマルチエージェント／MCP 連携へ、②効率化訴求から価値創造・発明の質量向上・事業創造へ、③ターゲットが知財部門から R&D・新規事業・経営層へ、④制度論点が「発明者性・制度設計」から「利活用と信頼性確保・入力情報の管理」へ。ただし両年とも、フェアの主戦場は調査・分析・明細書作成であり、純粋な「アイデア発想」専門の展示は少数派にとどまるとみられる（推論）。

1. 調査の前提と方法

- 調査基準日は 2026 年 9 月 21 日（一部を 9 月 22 日に補足確認）。2026 年フェアは閉幕済みであり、開催前の告知情報と閉幕直後までに確認できた情報を統合した。

- 一次情報（公式サイト、主催者・出展者のプレスリリース、出展者ポータル）を最優先とした。
ただし公式の出展者プレゼンテーション・プログラムは画像で提供され^[8]、出展者ポータルは動的ページである^[6]ため、機械可読テキストとして悉皆取得できなかった。プログラムは第三者まとめ^[9,10]で補完した。
- 「該当」の基準：生成 AI／LLM／AI エージェントを用いて、アイデア発想、発明創出・発明発掘、発明提案書（IDF）作成、課題・解決手段や用途の探索、特許情報からの事業機会探索、IP ランドスケープ×生成 AI による企画立案のいずれかに明示的に言及した展示・発表。特許調査の効率化や明細書ドラフトのみのものは「隣接」として区別した。
- 本文では、確認できた事項を【事実】、本稿の分析・推論を【推論】として区別する。上付き番号は文末の参考文献に対応する。

2. 両年の開催概要【事実】

表 1 開催概要の比較

項目	2025 年（第 34 回）	2026 年（第 35 回）
会期	2025 年 9 月 10 日（水）～12 日（金） ^[3]	2026 年 9 月 16 日（水）～18 日（金）10:00～17:00 ^[1,2]
会場	東京ビッグサイト 西 3・4 ホール ^[3]	東京ビッグサイト 東 3 ホール ^[1]
出展規模	告知時「152 社」 ^[11] → 実績 158 社・団体（共同出展者含む）／328 小間 ^[3]	171 社・団体／367 小間 （主催者は「史上最大規模」と表現） ^[1]
登録来場者	3 日間合計 15,207 名 （9/10：3,754 名、9/11：4,610 名、9/12：6,843 名） ^[3]	累計 15,502 名 （9/16：3,959 名、9/17 累計：8,634 名、9/18 累計：15,502 名） ^[2]
主催	発明推進協会、日本特許情報機構（Japio）、産経新聞社 ^[12]	同左 ^[13]
出展者プレゼン	5 会場（2026 年に 1 会場増設との主催者発表からの逆算） ^[1]	6 会場・全 108 テーマ （主催者は「過去最多」と表現） ^[1]
コンファレンス	各国特許庁等の関係機関による講演ほか ^[14]	特許庁、WIPO、EUIPO、韓国知識財産処（MOIP）、EPO、JETRO 等が登壇 ^[1,9]

前年比は、出展者数+8.2%（158→171）、小間数+11.9%（328→367）、来場者数+1.9%（15,207→15,502）である。出展・プレゼン枠は拡大した一方、来場者は横ばいから微増であり、会

場内の「AI ツール密度」が上がったとみるのが妥当である（後段は推論）。

3. 2026 年の該当展示・発表

3.1 出展者の展示・新機能

表 2 2026 年：アイデア発想／発明創出に関する主な展示

出展者	製品・機能	アイデア発想／発明創出との関係	手法・特徴	確認状況・新規性
AI Samurai (トヨタテクニカルディベ ロップメント と共同プー ス) [5,15]	「AI Samurai ONE」新機能、知 財 AI エージェン ト「MCP サーバ ー」	「 発明御三家 」：GPT／ Claude／Gemini の 3LLM が 1 つのチャット上で合議し発想を 深化。 「 発明ホコタテ 」：1 件の基本 特許から役割の異なる周辺特許 群 5～6 件（案）を約 5 分で自 動生成。 「特許合戦」：ポートフォリオ ×製品比較の可視化。	マルチ LLM 合議。 MCP で日・米・中の特 許 DB に直結し、調査 ～明細書～戦略立案を 一気通貫化。来場者向 けに MCP サーバー 2 週 間無料トライアル（150 社・1 社 10ID）。	自社リリースで確 認。 新発表 (2026 年 9 月 9 日付)。
aiip (スズエ国 際特許事務所 と連携) [6]	知財全工程を支援 する生成 AI ツー ル (SaaS)	マインドマップによる発明発掘 →明細書ドラフト生成→拒絶理 由対応→FTO・抵触分析→情報 提供・異議・無効審判による他 社牽制。	上流（発明発掘）から 権利化・活用まで一気 通貫。AI が構造化した 出力を弁理士が精査・ 補正し、JPO 提出まで 対応する連携モデル。	出展者ポータル掲 載文（検索結果抜 粋）で確認。 2025 年も出展 [3]。
東芝デジタル ソリューションズ[7]	「IPeakMS®」＋ 生成 AI	IPeakMS に蓄積された知財情報 を生成 AI で活用し、 発明創出 から知財活用までを支援 。「次 のアクション」を提案し新たな 価値創出につなげる。	社内知財データ×生成 AI。知見の継承、タイ ムスタンプによるアイ デア・ノウハウの存在 証明。	自社イベントペー ジで確認。
Patentfield[16]	Patentfield／ Patentfield AIR、 独自 LLM「D シ リーズ」、新機能 「AI 検索サポート (仮)」	調査・分析が中心（隣接）。独 自 LLM と AI 検索支援によ り、発想の前提となる先行技術 把握を高速化。	独自 LLM。会期中ブー ス内セミナーを毎時開 催、無料トライアルを 案内。	自社リリースで確 認。新機能。

出展者	製品・機能	アイデア発想／発明創出との関係	手法・特徴	確認状況・新規性
Patsnap ^[10,17]	Eureka (MCP 連携等)	AI エージェントが先行技術を俯瞰し 発明の方向性を提案 。業界カオスマップでは「発明創出・R&D スカウティング」領域の主要プレーヤーと整理。	大規模特許 DB と一体運用、外部 AI・ツールとの連携。	2026 年の展示内容は二次情報ベース。2025 年出展は公式一覧で確認 ^[3] 。
アイ・ピー・ファイン (小間 3-C23) ^[18]	「THE 調査力 AI」「知財 DX ラボ」ほか	出展者プレゼン「生成 AI による R&D ランドスケープと知財 DX ラボの最新情報」「国内外の検索から分析まで一気通貫の知財業務革新と生成 AI」 ^[9] 。	生成 AI と人の分業、生成 AI によるノイズ除去、検索～分析の一気通貫。R&D ランドスケープは企画・発想の上流に接続。	自社ページで確認。
パテント・インテグレーション ^[19]	「サマリア」、サマリア MCP	読解・調査・明細書が中心（隣接）。MCP により外部 AI から特許 DB を直接利用。	MCP 対応。生成 AI×知財情報分析の書籍連動講演。	自社リリースで確認。新機能。
エムニ ^[6,20]	「AI 特許ロケット」／知財オーダーメイド AI 開発	特許調査の高速化により高頻度の仮説検証（技術探索・仮説構築）を支援。	京大／松尾研発スタートアップ。調査工数削減と経営戦略への知財貢献を訴求。	出展者ポータルに出展製品の掲載を確認（検索結果抜粋）。2025 年も出展 ^[3] 。
VALUENEX ^[21]	Radar シリーズ	俯瞰解析＋生成 AI による 新規事業テーマ・アイデア創出 、用途探索、論文×特許の融合俯瞰。	俯瞰（テキストマイニング）×生成 AI。	機能は自社イベント情報で確認。2025 年出展は公式一覧で確認 ^[3] 、 2026 年出展は一次再確認未了 。
root ip ^[22]	知財事務 AI エージェント	発想系ではない（対象外）。ただし「エージェント化」潮流の象徴。	企業－事務所間のデータ同期、事務処理の自動化。	自社リリースで確認。出展自体は 2025 年から ^[3] 。

注：以下は上流（発明創出）領域の関連プレーヤーだが、**2026 年フェアへの出展を一次情報で確認できていないため表から除いた**。リーガルテック（「MyTokkyo.Ai」＝特許調査・発明抽出プラットフォーム、「AI IPGenius」＝社内データと特許の統合分析・発明候補の抽出支援^[23]。2025 年の公式出展企業一覧には不掲載^[3]）、アスタミューゼ（同一覧に不掲載）、NEC「知財 DX」（2026 年 4 月開始、発明創出～明細書を包括、月額 100 万円～とされる）および Genzo AI（島津製作所 90%出資、2026 年 4 月設立、IDF 領域）^[17]。エクセルスカウト（XLSCOUT）／ティーティーコンサルタント、NTT データ、amplified ai、Speeda、Smart-IP は 2025 年出展を公式一覧で確認したが^[3]、2026 年の出展・

展示内容は未確認である。

3.2 主催者企画（特別講演・特別フォーラム等）と出展者プレゼンテーション

主催者企画のうち、生成 AI×知財業務の上流・経営接続に関するものは次のとおり^[1,9]。

- 9/16 10:30～12:00 「JR 東日本が進めるイノベーションと、それを支える知的財産戦略」（ユーザー企業のイノベーション×知財）
- 9/16 13:00～15:00 「生成 AI・DX で進化する知財業務—AI ファースト時代の戦略転換」
- 9/17 10:30～12:00 「AI による生産性向上を生かした知財部門の価値向上策とは何か～本格化するトランスフォーメーションと次世代知財人材像～」
- 9/17 13:00～17:00 知財・情報コンファレンス（各国・国際機関の知財庁等）
- 9/18 10:30～12:00 特別フォーラム「AI 時代の知財・商標実務を考える～利活用の可能性と信頼性確保の課題～」
- 9/18 13:00～15:00 「未来を創る経営戦略 デザインと知財が導く企業価値向上～無形資産を横断的かつ戦略的に捉え、経営の中核に据える新たな枠組みとは～」

出展者プレゼンテーション（全 108 テーマ）のうち、発想・発明創出・企画に関する题目的例^[9]。題目は確認できたが、**出展者名を特定できていないものがある。**

- 「グローバル特許 TOP10 企業が選んだ On-Premise 構築型発明届出書作成支援システムのご紹介」（9/17 10:15～11:00。IDF 作成支援。出展者名未確認）
- 「特許・技術アセットから新用途を見つける—AI 活用の最先端」（9/17 16:05～16:50。用途探索。出展者名未確認）
- 「事業に貢献する知財戦略の考え方と AI を活用した具体的プロセス」（9/16 13:45～14:30。出展者名未確認）
- 「AI 特許 MCP で書類作成・調査・中間処理と子供発明成果を発表」（9/16 10:15～11:00。出展者名未確認）
- 「生成 AI のその先へ 日立知財ソリューションの未来構想」（9/17 14:55～15:40）
- 「発明情報を外に出さない—完全オフラインで動く特許明細書作成 AI」（9/16 16:05～16:50。入力情報の秘匿という論点に対応。出展者名未確認）

- このほか「AI時代の知財部—『権利の守護者』から『事業創造の先導者』へ」「そのAIに知財情報を入れて大丈夫？AI活用時代の知財情報管理」、ユーザー企業の登壇・対談（明治、バンダイ、サントリー×TOPPAN等）が把握されている（9月21日調査時点の把握。9月22日の項目別再確認は未了）。

4. 2025 年の該当展示・発表

4.1 出展者の展示

表 3 2025 年：アイデア発想／発明創出に関する主な展示

出展者	製品・機能	アイデア発想／発明創出との関係	手法・特徴
Axelidea (Minoru IP グループ、小間 W4-79) ^[4]	「AXELIDEA Patent」「AXELIDEA Patent Flow」	2025 年の「発想」直球の象徴。 出展テーマは「知財×AI×データ アイデアを生み出す AI」。特許明細書を学習して 0→1 のアイデアを生成し、8 つの生成 AI を使う発想 AI エージェントで多様なアイデアを量産。 請求項の自動生成、ニーズ予測、事業化ストーリー自動生成まで拡張。プレゼン題目「AI が拓く創造知のフロンティア：ひらめきを連れてくる AI」。	特許文献学習型 LLM+マルチ AI 発想。Patent Flow は特許番号入力で活用戦略レポート（用途・移転先探索）を自動生成。出展は公式一覧でも確認 ^[3] 。
アズテック ^[14]	知財調査支援サービス	プレゼン「特許調査での生成 AI 活用の最前線」。調査が中心（隣接）。	生成 AI を活用した調査。
NGB ^[14]	特許分析＋生成 AI	プレゼン「ポートフォリオ構築のための特許分析新指標と生成 AI 活用の可能性」。企画に接続しうる分析。	分析指標×生成 AI。
東芝 ^[14]	IPeakMS、生成 AI プロンプト事例	東芝知財部ワーキンググループ「知財業務への生成 AI の活用を考える」の成果（効率・質向上のプロンプト事例）。発想への言及は限定的。	社内実践事例。

出展者	製品・機能	アイデア発想／発明創出との関係	手法・特徴
その他 (Patentfield、 日本パテントデ ータサービス、 パナソニック ソ リューションテ クノロジー、日 立等) ^[3]	AI 検索、要約、分 析、LLM 活用	大半は特許調査の効率化・分析・明細 書作成（隣接）。	AI 検索・要約等。

注：2025 年の公式出展企業一覧^[3]には、AI Samurai、aiip、エムニ、NTT データ、エクセルスカウト／ティーティーコ
ンサルタント、amplified ai、Speeda、Smart-IP、Patsnap、VALUENEX、パテント・インテグレーション、root ip 等も
掲載されている。ただし各社の 2025 年展示が本テーマ（発想・発明創出）に該当したかは個別に確認できていない。ア
ズテック、NGB、東芝の題目は 9 月 21 日調査に基づくもので、公式プログラムでの項目別再確認は未了である。

4.2 主催者企画（特別講演・特別フォーラム等）

- ・ 特別フォーラム「AI 時代の知財制度構築を考える～知的創造活動の変化と知財権、必要な人材と
は～」(2025 年 9 月 11 日 10:30～12:10、西 4 ホール内特設会場)。講演者は渡部俊也氏（東京
科学大学副学長／東京大学名誉教授）、齋藤匡史氏（ダイキン工業）、和泉恭子氏（富士通）。
TMI 総合法律事務所の柴野相雄弁護士が講師として参加（役割の詳細は未確認）^[24]。AI による知
的創造活動の変化、知財権、人材を扱う制度論であった。
- ・ 生成 AI の事業活用・知財活用を各業界企業が共有する特別フォーラム（KIT 虎ノ門大学院の教授
が登壇）^[11,14]。
- ・ 特別講演「生成 AI 台頭時代におけるブランド戦略と知的財産管理術」（海外での IP 商品化事例）
^[14]。登壇者名は一次情報で再確認できなかったため記載を控える。
- ・ 各国特許庁等の関係機関による講演^[14]。

4.3 2025 年フェアの「空気感」（出展者・来場者の所感）

- ・ 出展者の所感として、「今年のフェアの主役は疑いようもなく生成 AI」で各社デモに人だかりが
できた一方、IP ランドスケープ関連は対照的に静かで、企業知財部から社内リソース縮小の声が
複数聞かれたとの報告がある^[25]。生成 AI が分析（論理）を担い、人は「問いを立てる／価値に翻
訳する／変革を推進する」役割に移るという整理も示されている（同氏の主観的評価を含む）。

- 来場者側の記録としても、158 社・団体出展、15,207 名来場の中で AI 関連展示が突出し、「AI が知財業務を変えること」を示したフェアであったと総括されている^[26]。

5. 観点別比較（2025 年 → 2026 年）

表 4 観点別の比較

観点	2025 年	2026 年	変化の評価
全体テーマ	生成 AI が「主役」化。中心は調査効率化・自動化・分析高度化 ^[25,26]	生成 AI が前提化。AI エージェント／MCP、マルチ LLM、発明創出、事業創造へ ^[1,5]	「効率化」から「創造・エージェント化」へ重心が移動（事実＋分析）
発想の代表格	Axelidea（0→1 発想、8AI エージェント、請求項・ニーズ・事業化まで） ^[4]	AI Samurai「発明御三家」「発明ホコタテ」 ^[5] 、aiip（発明発掘） ^[6] 、東芝（発明創出支援） ^[7]	単発生成から、マルチ LLM 合議・特許網設計へ
手法	チャット型の壁打ち、特許学習 LLM による生成、俯瞰×生成 AI	MCP による特許 DB 直結、調査～発想～明細書～戦略の一貫通、社内知財データの活用	単発から連携・自律実行・根拠付きへ。MCP が 2026 年のキーワード
基盤モデル（公表分）	各社の特許学習 LLM、8 つの生成 AI の併用（Axelidea） ^[4]	GPT・Claude・Gemini 併用（AI Samurai） ^[5] 、独自 LLM「D シリーズ」（Patentfield） ^[16]	マルチ LLM 併用、独自 LLM、MCP 対応が明確化
ターゲット	知財部門が中心（一部 R&D・経営）	知財部門＋R&D・新規事業・経営層（「事業創造の先導者」「経営の中核」等の訴求） ^[9]	上流・経営側へ拡張
訴求メッセージ	効率化・自動化・分析高度化	価値創造、発明の質と量、事業創造、無形資産経営。主催者も「守る」から「活かす」へを明示 ^[2]	効率から価値へ
プレイヤーの動き	Axelidea が発想を前面化。AI Samurai、aiip、エムニ、root ip、Marq Vision 等も出展 ^[3]	既存出展者による 新機能・新製品の投入 が中心（AI Samurai 新機能群、root ip の事務エージェント等） ^[5,22]	新規出展者の特定は悉皆リスト未取得のため未了。業界全体では NEC、Genzo AI 等が上流に参入 ^[17] （フェア出展は未確認）
ユーザー企業事例	東芝知財部 WG 等。主に調査・LLM 活用 ^[14]	JR 東日本（イノベーション×知財）のほか、明治、バンダイ、サントリー×TOPPAN 等の登壇 ^[9]	「効率化」事例から「経営・イノベーション」事例へ

観点	2025 年	2026 年	変化の評価
制度・法的論 点	特別フォーラム「AI 時代の知 財制度構築」（知的創造活動の 変化、知財権、人材） ^[24]	特別フォーラム「AI 時代の知 財・商標実務～利活用の可能性と 信頼性確保の課題」、出展者プレ ゼンで知財情報の入力管理・完全 オフライン AI ^[9]	抽象的な制度論から、実務の信 頼性・情報ガバナンスへ具体化
規模	158 社・団体／328 小間、 15,207 名 ^[3]	171 社・団体／367 小間、15,502 名、6 会場・108 テーマ ^[1,2]	出展+8.2%、小間+11.9%、来 場+1.9%

6. 変化の考察

6.1 確認できた事実【事実】

1. 主催者は 2026 年、特別講演の柱に「生成 AI・DX で進化する知財業務ーAI ファースト時代の戦略転換」を据え^[9]、英語名称の刷新とともに知財を「守る」から「活かす」へと打ち出した^[2]。
2. アイデア発想／発明創出に直結する機能が 2026 年に具体化した。AI Samurai「発明御三家」「発明ホコタテ」^[5]、aiip のマインドマップによる発明発掘からの一気通貫^[6]、東芝デジタルソリューションズの発明創出支援^[7]である。
3. 2025 年は、Axelidea が「アイデアを生み出す AI」を最も明確に前面化していた^[4]。
4. MCP（Model Context Protocol）への対応表明が 2026 年に相次いだ（AI Samurai^[5]、パテント・インテグレーション^[19]ほか）。
5. 制度・法的論点は、2025 年の「知的創造活動の変化と知財権・人材」^[24]から、2026 年の「利活用の可能性と信頼性確保」「AI への知財情報入力の管理」^[9]へ移った。

6.2 分析・推論【推論】

- 「効率化フェーズ」から「創造・エージェントフェーズ」への移行が進行中と読める。2025 年は調査・明細書の効率化ツールが中心で、発想系は少数の尖った出展にとどまった。2026 年はマルチ LLM 合議と MCP により、調査→発想→提案書→明細書→戦略を横断する統合が進み、発想が「独立機能」から「ワークフローの一部」へ組み込まれつつある。
- 発想系が少数派である点は両年共通とみられる。業界カオスマップでも、参入は検索・明細書作成に厚く、発明創出は相対的に少ない^[17]。ただし本調査では全出展者・全 108 題目の悉皆カウントができておらず、比率は未確定である。

- **ターゲットの経営・R&D 拡張**は、名称刷新、特別講演の主題、ユーザー企業登壇の増加から一貫して読み取れる。2025年時点で「言葉としては下火」と観測されたIP ランドスケープ^[25]は、2026年に「生成 AI による R&D ランドスケープ」「事業創造」として再包装された可能性がある。
- **発想の「量産」は新たな論点を生む**。周辺特許群の自動生成のような機能が普及すれば、人の実質的関与の記録（発明者性）、出願前アイデアの秘密管理、AI 生成アイデアの公開による先行技術化といった論点の実務的重要性が増す。2026 年の情報管理系の講演題目の増加は、この問題意識の表れと解される。法的評価が定まっていない部分が多く、断定は避ける。

7. 今後の展望と実務上の示唆

1. **【～3 か月】上流ボトルネックの特定**。自社の律速が「白地探索（何を発明するか）」「発明発掘・IDF」「調査」「明細書」のいずれかを先に切り分ける。発想が弱ければ発想特化型・マルチ LLM 合議型・俯瞰解析型を、IDF 起点なら発明発掘一気通貫型を評価対象とする。判断基準は社内発明件数とスクリーニング負荷。
2. **【3～6 か月】PoC**。無料トライアル（AI Samurai の MCP サーバー2 週間トライアル^[5]、Patentfield の無料トライアル^[16]等）を用い、マルチ LLM 合議による発想の質と、MCP による自社データ連携の実効を検証する。評価指標は、(a)生成アイデアの新規性・進歩性の「当たり率」、(b)発明提案書までの工数削減率、(c)ハルシネーション率。申込期限等の条件は各社の最新情報で確認されたい。
3. **【6～12 か月】ガバナンス整備を並走**。AI 利用発明における人の実質的関与の記録、入力データの秘密保持と公知化リスク、社外 AI への機密投入の可否とログ管理を社内規程化する。
4. **【継続】知財部門の外へ**。R&D・新規事業部門を巻き込み、生成 AI 発想を発明発掘会議やテーマ探索に接続する。AI が分析を担い、人は「問いの設定・価値への翻訳・変革推進」に注力する分業設計が現実解である。

本格導入への移行の目安は、マルチエージェント発想の新規性「当たり率」が人手の壁打ちを上回ること、および社内文書と外部 LLM の安全な連携が確立することである。逆に、誤発想や情報漏えいのリスクが顕在化した場合は、完全オフライン型などクローズド環境への回帰も選択肢となる^[9]。

8. 調査の限界・未確認事項

8.1 限界

- 2026 年の全出展者（171 社・団体）と全 108 プレゼン題目の一次リストは、画像^[8]と動的ページ^[6]でのみ提供され、悉皆取得できなかった。したがって「該当件数」の定量比較は未達である。
- 第三者まとめ^[9]は 9 月 22 日の再取得時にアクセス制限（HTTP 429）となり、項目別の再確認は検索結果の抜粋で行った一部にとどまる。題目を確認できても出展者名を特定できていないものがある（3.2）。
- 2026 年閉幕後の来場者・専門家による総括レポートは、本調査時点で十分に収集できていない。続報の確認を推奨する。
- NEC、Genzo AI、リーガルテック、アスタミューゼ、IPRally、知財図鑑等の 2026 年出展の有無は一次確認できていない。エクセルスカウト、NTT データ、amplified ai、Speeda、Smart-IP は 2025 年出展のみ確認した。
- 価格・提供形態は一部のみ確認できた。NEC の月額料は業界メディアの記載^[17]であり、一次情報での確認は未了。
- 所感・業界記事^[17,25,26]は主観または二次分析を含む。

8.2 前版（2026 年 9 月 21 日のチャット版レポート）からの補正

- 2025 年の小間数を「285 小間規模」から、公式の前回レポートに基づく「328 小間」に訂正した^[3]。
- 「新規参入」の記述を修正した。root ip、Marq Vision は 2025 年も出展しており^[3]、2026 年の新規は「出展者」ではなく「新機能・新製品」と整理するのが正確である。
- エムニの 2026 年出展を出展者ポータルに掲載（検索結果抜粋）で確認し^[6]、「未確認」から主要事例表へ移した。
- リーガルテック、アスタミューゼは 2026 年出展を一次確認できなかったため、主要事例表から注記へ移した。
- 2025 年特別フォーラムの日時・会場・登壇者を一次情報で補った^[24]。一方、2025 年特別講演の登壇者名（前版に記載）は再確認できなかったため削除した。
- 前版で省略表記となっていたアイ・ピー・ファインの URL を完全表記に改めた^[18]。

参考文献

URL は調査時（2026 年 9 月 21 日、一部 9 月 22 日）に参照したもの。表題の一部は内容を要約した表記である。動的ページ等で本文を直接取得できなかったものは、その旨を各項に付記した。

- [1] 産経新聞社 プレスリリース（PR TIMES、2026 年 7 月 30 日）：第 35 回「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」開催告知（「史上最大規模」「国内外 171 企業」、6 会場・全 108 テーマ等）。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000002094.000022608.html>
- [2] 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト トップページ（開催概要、来場者数速報）。
<https://pifc.jp/2026/>
- [3] 同 公式サイト「前回レポート」（2025 年開催実績：会期・会場・出展者数／小間数・日別来場者数、前回出展企業一覧）。2026 年 9 月 22 日に本文を確認。<https://pifc.jp/2026/report.html>
- [4] Axelidea 株式会社：2025 年フェア出展案内、「AXELIDEA Patent Flow」案内、「AXELIDEA Patent」製品ページ。<https://axelidea.com/20250815/> / <https://axelidea.com/20250901/> / <https://axelidea.com/axelidea-patent/>
- [5] 株式会社 AI Samurai プレスリリース（PR TIMES、2026 年 9 月 9 日）：2026 年フェア出展、新機能「発明御三家」「発明ホコタテ」「特許合戦」、知財 AI エージェント「MCP サーバー」無料トライアルの告知。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000306.000021559.html>
- [6] AiMeet Portal「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」出展者一覧／出展者セミナー（公式の出展者ポータル。動的ページのため本文は検索結果の抜粋でのみ確認）。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/> / <https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/seminars?cat=exhibitor-presentation>
- [7] 東芝デジタルソリューションズ株式会社「2026 知財・情報フェア&コンファレンス | イベント情報」。
<https://www.global.toshiba/jp/company/digitalsolution/event/2026/0916-0918.html>
- [8] 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト「出展者プレゼンテーション」（プログラムは画像で提供）。<https://pifc.jp/2026/presentation.html>
- [9] 知財デジタルイノベーションハブ（チザ D）「【知財・情報フェア&コンファレンス 2026】セミナー・プレゼン情報まとめ」Substack（最終更新 2026 年 9 月 6 日）。2026 年 9 月 22 日の再取得はアクセス制限（429）のため不可、検索結果の抜粋で一部を再確認。<https://ipdigitalinnovationhub.substack.com/p/2026>
- [10] チザ D (@ip_dih) 「【2026 知財・情報フェア】知財サービス新機能まとめ」posfie。
https://posfie.com/@ip_dih/p/0W2dUoh
- [11] 産経新聞社 プレスリリース（PR TIMES）：第 34 回「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」開催告知（「過去最大 152 社出展」）。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001963.000022608.html>
- [12] 一般財団法人日本特許情報機構（Japio）「知財・情報フェア&コンファレンス」案内ページ。
<https://japio.or.jp/fair/index.html>

- [13] 独立行政法人工業所有権情報・研修館 (INPIT) 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス (9 月 16 日～18 日) に出展します」 (2026 年 8 月 18 日)。 https://www.inpit.go.jp/about/topic/info_20260818.html
- [14] 2025 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト「来場のご案内」 (特別講演・特別フォーラム等) および「前回レポート」。 <https://pifc.jp/2025/visit/> / <https://pifc.jp/2025/report/>
- [15] レスpons配信記事 (Yahoo!ニュース掲載) : トヨタテクニカルディベロップメントと AI Samurai の 2026 年フェア共同出展。 <https://news.yahoo.co.jp/articles/326fa25c5541a42ac44fd8a777b6de72dbb2d1ea>
- [16] Patentfield 株式会社 プレスリリース (PR TIMES) 「Patentfield『2026 知財・情報フェア&コンファレンス』出展のお知らせ」。 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000067.000025380.html>
- [17] GrIP「生成 AI×知財ツール完全ガイド【フェーズ 1】発明創出から明細書作成まで——78 社の競争地図 Part1」 (2026 年 4 月 25 日)。記事元: LeXi/Vent「生成 AI×知財ベンダーカオスマップ 2026」。業界メディアによる二次分析。 <https://growing-ip.com/?p=1413>
- [18] アイ・ピー・ファイン株式会社「2026 知財・情報フェア&コンファレンスへ出展します」 (2026 年 7 月 8 日)。 [https://ipfine.jp/event-seminar/2026 知財・情報フェア&コンファレンスへ出展しま/](https://ipfine.jp/event-seminar/2026%20知財%20情報フェア%20&%20コンファレンスへ出展しま/)
- [19] パテント・インテグレーション株式会社 プレスリリース (PR TIMES) : 2026 年フェア出展告知 (「サマリア」、サマリア MCP 等)。 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000027.000086119.html>
- [20] 株式会社エムニ プレスリリース (PR TIMES) : 「AI 特許ロケット」関連。 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000134983.html>
- [21] VALUENEX 株式会社「イベント・セミナー」一覧 (俯瞰解析×生成 AI による新規事業テーマ・アイデア創出等)。 <https://www.valuenex.com/jp/events>
- [22] 株式会社 root ip プレスリリース (PR TIMES) : 知財事務 AI エージェントの 2026 年フェアでの披露告知。 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000166451.html>
- [23] リーガルテック株式会社 プレスリリース (PR TIMES、2026 年 5 月 15 日) : 「AI IPGenius」導入事例 (会社概要に「特許調査・発明抽出プラットフォーム『MyTokyo.Ai』」等の記載)。 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000479.000042056.html>
- [24] TMI 総合法律事務所「2025 知財・情報フェア&コンファレンス 特別フォーラム AI 時代の知財制度構築を考える～知的創造活動の変化と知財権、必要な人材とは～」セミナー・イベント案内 (開催日: 2025 年 9 月 11 日)。 <https://www.tmi.gr.jp/eyes/event/2025/17339.html>
- [25] 塩谷綱正「知財情報フェア 2025 で感じたこと | AI の熱狂と IP ランドスケープの静寂」note。出展者による所感 (主観的評価を含む)。 <https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>
- [26] 萬秀憲「AI が知財業務を変えることを示した知財・情報フェア」よろず知財戦略コンサルティング ブログ。 <https://yoroziupsc.com/blog/ai9639613>